

地域課題研究開発部門報告

著者	石田 和子, 坪倉 繁美, 高? 智子, 藤川 あや, 岡村 典子
雑誌名	看護研究交流センター活動報告書
巻	24
ページ	34-44
発行年	2013-04-20
URL	http://hdl.handle.net/10631/1091

地域課題研究開発部門報告

石田和子，坪倉繁美，高柳智子，藤川あや，岡村典子
新潟県立看護大学看護研究交流センター 地域課題研究開発部門

I. 活動概要

1. 上越地域看護研究発表会の開催

上越地域の看護職の連携を図る目的で，新潟県立看護大学看護研究交流センターと新潟県上越地域振興局健康福祉環境部の共催で開催され，156名の参加者であった。平成24年度は第1・第2ホール・大会議室にて行われ，示説発表を行わず口頭発表とした。

平成23年度に引き続き上越地域の各病院や地域に所属する看護職員が臨床の場で取り組んできた研究発表に対して活発な意見や質問がされ「上越地域の看護の実践を知ろう！」というテーマの目的を達成することができた。

1) 発表プログラム

日時：平成24年9月29日（土）場所：新潟県立看護大学

(1) 第1群（第1会場 第1・第2ホール） 9:40～10:20

座長 歌川 孝子（上越地域振興局健康福祉環境部）

- ① 経腸栄養患者の下痢に対する意識調査とフローチャートの作成
～統一したケアをめざして～

笠尾 雄大（上越地域医療センター病院）

- ② 在宅終末期看護を通して学んだこと

堀川 文子（県立妙高病院）

- ③ 医行為が必要な在宅療養者へ看介連携がもたらしたもの

～24時間在宅ケアサービス提供に向けての取り組み～

飯塚 文恵（居宅介護支援援助事業所ライフサポートゆう）

- ④ 「最後の瞬間」～家族と共に寄り添って～

平原 恵美（老人保健施設くびきの）

(2) 第2群（第1会場 第1・第2ホール） 10:25～11:05

座長 岡村 典子（新潟県立看護大学）

- ⑤ 2交代制における「12時間以内の勤務」導入に向けた挑戦
～「12時間2交代制」を試行して～

丸山 サチ子（上越地域医療センター病院）

- ⑥ 看護学生の卒業時到達看護技術の到達状況に関する報告

石川 麻美（上越看護専門学校）

- ⑦ 総合実習における主要課題の理解度と働くイメージとの関連

池田 紀美子（上越看護専門学校）

⑧ 上越地域の健診データ分析結果の活用

「健診結果分布表性別・年代・検査項目別」の作成と試用から～

山田 知佳（上越地域振興局健康福祉環境部）

(3) 第3群（第1会場 第1・第2ホール） 11:15～11:53

座長 馬場 智恵子（県立妙高病院）

⑨ 受け持ち患者への挨拶運動実施による看護師の意識・行動の変化

井上 祐弥（三交病院）

⑩ 精神科リハビリテーション行動評価尺度を使った精神科長期入院患者の退院支援を試みて

池田 和子（川室記念病院）

⑪ 新入者教育における配薬ミス予防対策

篠原 精子（にしき園）

⑫ 県立中央病院における肝臓病教室の取り組みと直面している問題点

宮崎 知子（県立中央病院）

(4) 第4群（第2会場 大会議室） 11:15～11:53

座長 新井 啓子（県立中央病院）

⑬ 身体抑制の現状と看護師の意識調査

笹川 麻衣子（上越総合病院）

⑭ バスタオル使用が体圧に及ぼす影響についての検討

～体圧測定を行ってみて～

竹田 久美子（けいなん総合病院）

⑮ 重症心身障害者の下肢循環不全に対する足浴の効果

～事例への足浴による足背温度と深部体温の変化～

岩崎 健太（さいがた病院）

⑯ NANDA - NOC - NIC 導入2年目における看護記録リーダーの役割

～看護記録委員とのかかわりを通して～

高橋 久美子（新潟労災病院）

2) 上越地域看護研究発表会実行委員会の活動

上越地域振興局健康福祉環境部、新潟県立看護大学看護大学看護研究交流センター地域課題研究開発部門（以下大学とする）が実施主体となり、上越地域の病院、保健所、市役所等の看護職員による実行委員会を編成、運営した。企画実行委員会は、3回（反省会、次年度計画を含む）開催し（平成24年6月13日、8月30日、11月7日）看護研究発表会実施に向けて、各病院・市町村などの状況を考慮して、テーマや演題募集について検討を重ねた。

【平成24年度上越地域看護研究発表会 実行委員会】

(1) 第1回実行委員会：平成24年6月13日（水）16時～

看護研究発表会の企画について

① 研究発表会の目的

上越地域の看護職員が取り組んだ看護研究等の成果を共有し、日頃の看護業務に活かすとともに、看護ネットワークを強化することにより、上越地域における看護ケアの質の向上と地域ケア体制の充実を図ることを目的とすることを確認した。

② 発表会のテーマについて

昨年度と同様に「上越地域の看護の実践を知ろう！」とすることを確認した。

③ 実施日時、演台募集等日程について

以下のとおりとする。

実施日：平成 24 年 9 月 29 日（土）午前 9 時 30 分から 12 時

演題募集：6 月下旬～8 月 17 日（金）

演台の種類：研究、実践報告、取組紹介

発表形式：口演、示説、ポスター掲示

④ 平成 24 年度実施要項・演題募集要項について

●抄録の作成方法について

昨年度は、あまり厳しく指定しなかったが、指摘の声もあったので、今年度は作成例を示し、昨年度より詳細に指定する。指定の内容は資料のとおり。

●倫理的配慮とその記述について

昨年度は、現場の実践者としての立場の研究者の研究であることを考慮し、倫理的配慮については特に指定していなかったが、軽視すべき点ではないとし、今年度は、倫理的配慮をチェックすると共に記述するよう、応募の段階で働きかける。倫理的配慮についての指示は、日本看護学会のものを用いる。

⑤ 発表会の内容について

昨年度は発表時間が短すぎることで、質疑応答の時間を十分に持てなかったことが反省として挙げられた。反省を生かし、今年度は 1 人あたりの持ち時間を 8 分とし、質疑応答の時間を確保できるよう計画していくことを確認した。

また、1 人あたりの持ち時間を確保するため、会場をいくつかに分けることも方法の一つとして考えていけばよいのではという意見が挙がった。

今後、提出された演台数を見て、当日の運営について計画していくこととする。

⑥ 今後の進め方・役割分担について

本会議終了後、上越地域の各医療機関へ演題を募集する旨、通知を出す。8 月 17 日（金）を提出締切とし、提出された演題数を見て、今後のことについて計画していく。

⑦その他

●広報について

上越地域看護研究発表会の広報については、基本的に健康福祉環境部が地域の医療機関へ情報提供していくが、健康福祉環境部ではカバーできない、福祉施設等への情報提供については看護大がカバーしていくこととした。

また、上越タイムスの県からのお知らせページに記事を掲載することが報告された。

●看護大「地域課題研究発表会」について

発表会当日、午後から看護大主催の地域課題研究発表会を予定しており、その周知を

上越地域看護研究発表会と併せて行っていくよう打診があり、了承された。

(2) 第2回実行委員会：平成24年8月30日（水）

議題：看護研究発表会の実施について

① 発表演題の募集状況について

14施設から16演題が提出された。

研究6題（老年看護3題、成人看護1題、精神看護1題、看護管理1題）実践報告7題（成人看護1題、精神看護1題、地域看護2題、看護管理1題、看護教育2題）取組紹介3題（成人看護1題、老年看護1題、地域看護1題）であった。演題が多数であり、第1会場（第1合同、第2合同）第2会場（大会議室）とし、2会場で発表会を行うこととした。

② プログラムの作成について

発表時間7分とし、発表者毎に質問時間3分を設けることとした。休憩時間は1群の後に10分間とした。第1会場、第2会場での発表演題について検討し、実行委員がいる施設から出された演題を第2会場で発表することとした。司会、座長を決めた。

③ 抄録の作成について

抄録査読については、当大学の部門委員で内容を確認し保健所へ返し、保健所から発表者へ修正依頼をすることが確認された。倫理的配慮を中心に査読を行い抄録の作成を進めた。大学の役割はプログラム・掲示物等・必要物品の準備をすることを決定した。保健所の役割はポスター作製・実行委員会の役割分担表作成、当日派遣依頼公文書の作成と発送に決定し、上越地域看護研究発表会開催に向けて大学と保健所で協力して準備を進めるための検討を重ねた。

④ 研究発表会での役割分担について

発表会当日の役割は、昨年の資料、実施をもとに委員の集合時間は8時30分とし座長との打ち合わせは9時からとした。また、当日の委員の役割分担を行った。

(3) 第3回実行委員会：平成24年11月7日（水）

議題：看護研究発表会の反省・評価

① 運営について

- ・大会議室の場所がわかりにくいため受付で案内するとよい。
- ・地域課題研究発表会の受付まで手が回らない。
- ・会場の前列が空いていた。
- ・挙手することができない参加者にとっては発表者との意見交換の場が必要である。
- ・閉会は、ホールに参加者を集めて実施した方がよい。
- ・演題数によって第1ホールと第2ホールをわけて、同時進行するプログラムも検討する。
- ・平成25年度は業者ブース、大学院ブースを設営したい。
- ・各病院で地域連携に関する演題を出してほしい。

② 発表者について

- ・抄録の形式は整ってきたが倫理的配慮の書き方が難しいという声があった。
- ・スライド作成方法、マイク・パワーポイント使用方法はオリエンテーションが必要。

③参加者について

- ・介護支援専門員が多く参加していた。
- ・自分の施設のみでの発表で帰る人が多かった。
- ・行政関係者の参加が少ないため、広報、声掛けが必要である。

議題：来年度の開催について

- ・平成 25 年度の上越地域看護研究発表会・地域課題研究発表会は、9 月 28 日（土）に決定した。

3) 広報活動

上越地域研究発表会の広報活動は、以下のように実施した。

- (1) 保健所が主体となり、ポスター、チラシ、発表会通知文を作成し上越地域の病院、保健所、市役所、看護大学などに配布した。
- (2) 発表会の様子が上越タイムスに掲載された。（2012 年 9 月 18 日号）
- (3) 発表会の様子を新潟県立看護大学看護研究交流センターHPに掲載した。
- (4) 発表会の様子を新潟県立看護大学広報誌「ポルティコの広場（22号）」に掲載した。

昨年同様に広報活動を実施し、上越市の病院に研究発表をするように依頼を行い、多くの上越地域の看護職の参加を促して来た。地理的な問題、勤務上の問題などがあり、開催時間などの変更を検討する必要がある。次年度は、土曜日の午前中に開催するなど検討を行う。

2. 平成 23 年度地域課題研究発表会開催

1)発表プログラム

日時：平成 24 年 9 月 29 日（土）13:00～14:40

◆研究発表

1. 成人期のがん患者の訪問看護利用に関する意識調査
～成人期のがん患者へのインタビューを通して～
長岡中央訪問看護ステーション 小黒 真紀子 13 : 05
2. 呼吸ケアに関連した在宅医療機器の介護職の取り扱いに関する実態調査
新潟県立津川病院 清塚 美希 13 : 15
3. 臨地実習指導者が捉えている学生理解の実態と今後の課題
新潟県立中央病院 尾矢 博子 13 : 25
4. C病院における看護研究に関する実態調査
～看護研究の支援体制作りに向けて～
仁愛会新潟中央病院 熊谷 美穂 13 : 35

5. 看護師が実践している看護サービスの特徴
 仁愛会新潟中央病院 沼 紀子 13 : 45
6. 拘縮手の不快臭に対する緑茶葉を用いたハンドケアの効果
 新潟厚生連羽茂病院 岡崎 園美 13 : 55
7. 外来化学療法を受けている大腸がん患者が体験している皮膚障害に対するストレスと対処行動に関する研究
 新潟厚生連長岡中央総合病院 三浦 一二美 14 : 05
8. 公立A病院外来における在宅酸素療法の実施状況について
 ～導入疾患と導入後の指導状況～
 新潟県立中央病院 古澤 弘美 14 : 15
9. 自死遺族が支援を求められるようになる動因
 国立病院機構さいがた病院 小林 創 14 : 25

3. 平成25年度 地域課題研究の申請状況

新潟県内の保健・医療・福祉に携わる看護職を対象に公募した地域の看護実践での研究課題について8件の応募があった。(公募期間：平成24年10月1日(月)～平成25年2月4日(月)17時まで)

〈活動内容〉

1) 公募要領の作成

公募要領，研究計画書，研究計画書記入要領，研究選定基準，研究組織変更届を作成し活用した。

2) 広報活動

新潟県内の保健・医療・福祉関係（約500か所）に公募要領を郵送するとともに，新潟県立看護大学看護研究センターHPに掲載し地域課題研究公募の広報活動を実施した。

3) 内定通知の発送

選考委員を選定し，3月下旬に研究代表者へ内定通知を発送する予定である。

4. 平成24年度地域課題研究の申請状況

本年度は7件の研究課題が採択されました。

申請者代表者	所属	研究テーマ
石井 瑞恵	長岡赤十字病院	繰り返し入院しながら化学療法を継続している進行大腸がん患者が受けるサポート
上原 喜美子	新潟県立小出病院	院内ケアスタッフの口腔ケア意識向上への取り組み

倉部 治子	独立行政法人国立病院機構新潟病院	重症心身障害児に対して唾液分泌抑制効果のあるスポコラミン軟膏の使用
大岩 愛	新潟県厚生連長岡中央病総合病院	施設における抗がん剤の被曝に対する医療者の意識と課題～多職種による実態調査を試みて～
木原 圭美	新潟県立中央病院	県立A病院における在宅酸素療法導入患者への指導の検討 導入後の継続した支援を行うために (仮)
上村 尚美	独立行政法人国立病院機構さいがた病院	慢性期病棟で長期入院する精神疾患患者への生活時間の質に関する研究
畠山 茉希	独立行政法人国立病院機構新潟病院	慢性腎疾患患児が長期入院中に抱く思いに関する研究

II. 平成 24 年度の評価と今後の展望

上越地域看護研究発表会は、前年度は異なり地域課題研究発表会と同時に土曜日に開催した。午前が上越地域看護研究発表会、午後地域課題研究発表会を行い、参加者総数は前年とほぼ同様であったが、自分の施設の発表のみの参加が見られた。演題数が多くなり、一部 2 会場で行った。さらに演題数の増加が次年度には予測されるため、第 1 ホール・第 2 ホールの 2 会場で行うことを検討する。

地域課題研究については、新潟県内の保健・医療・福祉の看護職から 8 件の応募があった。今年度は、看護職が応募しやすい期間の設定として上越地域課題研究発表会に合わせて公募した。公募締切りまでには 6 件の応募があった。しかし、目標数に及ばなかったため 1 か月間公募の延長を行った。次年度は公募期間の設定は同様に地域課題研究発表会に合わせて公募し、さらに公募活動として地域の新聞などに掲載するなど検討し地域の看護職者の研究の取り組みを発展支援していきたい。

次年度は、参加者が研究発表以外に多くのことを学べるように、業者の協力を得てブースや大学院のブースなどを設置するなど検討を進めていきたい。日程については毎年 9 月第 4 土曜日に行うこととした。

資料1－平成24年度上越地域看護研究発表会アンケート結果

上越地域看護研究終了後のアンケート結果

回収数 45 枚 / 参加者数 138 人 回収率 32.6%

1 運営について

1) 会場の広さ

ちょうど良い	もっと広い会場が良い	もう少し狭い会場が良い
39 (86.7%)	3 (6.7%)	13 (6.7%)

*もっと広い会場を選択した人は、大会議室のことを指している。

2) プレゼンテーション機器等の配置について

適切	改善必要
42 (93.3%)	3 (6.7%)

- ・ 発表とスライドが合っていなかった。
- ・ 第1会場はマイクの音が小さい。
- ・ パソコンの操作の支援を。

3) 発表会の案内方法

とてもよい	よい	より工夫が必要
12 (26.7%)	29 (64.4%)	3 (6.7%)

未記入 1

- ・ 目立つポスターがよい
- ・ 年間計画の一つとして予定を聞かせてほしい。
- ・ 大会議室がわからなかった。

2 発表について

1) 発表時間について

適切	改善・工夫が必要
43 (95.6%)	0 (0%)

未記入 2

- ・ 時間の設定が短い。

2) 質疑応答の時間について

適切	改善・工夫が必要
41 (91.1%)	4 (8.9%)

- ・ 質疑応答の時間を始めからもっと取っておいた方がよい。
- ・ 最後にまとめて質問をとってもよい。
- ・ もう少し時間を取ってほしい。

3 発表内容について

わかりやすい	ややわかりやすい	やや難しい	難しい
34 (75.6%)	9 (20.0%)	1 (2.2%)	0

未記入 1

4 プログラム全体について

とてもよい	よい	より工夫が必要
17 (37.8%)	26 (57.8%)	0 (0%)

未記入 2

5 発表会全体について

満足	やや満足	やや不満	不満
22 (48.9%)	22 (48.9%)	1 (2.2%)	0 (0%)

6 発表内容についての感想

- ・ 第1群のみの参加だったが、これからの地域、看護、介護について考えさせられた。はじめての参加だったが、みなさん一生懸命研究されていると思った。
- ・ 妙高病院「在宅終末期看護を通して学んだこと」について、在宅サービスの利用を今後検討し、より良い終末期を在宅で迎えていただきたいと思う。
- ・ 他院の状況を知る機会となり良かった。
- ・ 病棟業務の具体例があると、すぐに現場に生かせるのでありがたいと思う。
- ・ ライフサポートゆうの内容が興味深かった。へき地医療（介護）の改善を希望するケアマネのレベルが高いと感じた。
- ・ 身近な話題でよかった。
- ・ 研究発表だけでなく取り組み紹介や実践報告もあり、現場で行われていることが発表会に反映されていて、とても良かった。
- ・ 修正は発表時に言うのはやめてほしい。具体的な改善を希望。
- ・ 様々な病院、施設、保健所から多様なテーマが発表され、とても参考になった。自分自身、意欲の向上につながる発表が多く聞けて良かった。
- ・ 各発表のスライドが手元にほしかった。
経腸栄養のところでは Kings stool chart と下痢対策フローチャート。
- ・ 非常に興味深い研究や新しい分野の研究が盛り込まれていて良かった。
- ・ とても勉強になった。

7 全体を通して

- ・ 座長の司会が的確で、はっきりしていて良かった。
- ・ 勉強になった。
- ・ 忙しい中、研究しようという意気込みはすばらしいと思った。
- ・ 第4群が別会場だったが、すべての発表がみたかった。（運営上、仕方ないかもしれないが）
- ・ 参加人数が前回、先々回より少ないようだった。平日の方が良いのでしょうか。
- ・ 開始時間を30分早くして、中間に休憩時間を取ってもらいたい。

8 参加者名簿から

名簿記載者数 106人 実行委員 16人 発表者 16人
 (106人の内訳:病院 69人 福祉施設 10人 学校 10人 在宅福祉関係者 16人 保健所 1人)

資料 2ー平成 23 年度地域課題研究発表会アンケート結果

平成 23 年度地域課題研究発表会アンケート結果

参加者 53名 アンケート回収数 20 枚

1. 運営について

1) 会場の広さについて

1. ちょうどよかった…12 名
 2. もっと広い会場が良かった…0 名
 3. もう少し狭い会場が良かった…7 名
- 無記入…1 名

2) プレゼンテーション機器（マイク、スクリーン）などの配置について

1. 適切だった…20 名
 2. 改善すべき点がある…0 名
- 無記入…0 名

3) 発表会の案内方法について

1. とてもよい…9 名
2. よい…7 名
3. より工夫が必要…3 名

無記入…1 名

※3. を選んだ方の具体的な意見

- ・上越地域以外のため、会場が分かりづらかった。
- ・より多くの施設に早めの案内を

2. 発表について

1) 発表時間について

1. 時間は適切だった…19 名
 2. 時間に改善、工夫が必要だった…1 名
- 無記入…0 名

※2. を選んだ方の具体的な意見

- ・一人ひとりもう少し長めが良い。実践の生の声が聞きたい。

2) 質疑応答の時間について

1. 時間は適切だった…19 名
 2. 時間に改善、工夫が必要だった…1 名
- 無記入…0 名

3. 発表内容について

1. わかりやすい…17 名
 2. ややわかりやすい…3 名
 3. やや難しい…0 名
 4. 難しい…0 名
- 無記入…0 名

4. プログラム全体について

1. とてもよい…9 名
 2. よい…10 名
 3. より工夫が必要…0 名
- 無記入…0 名

5. 発表会全体について

1. 満足…10名
2. やや満足…9名
3. やや不満…0名
4. 不満…0名
- 無記入…0名

6. 発表内容についての感想

- ・研究内容が様々で勉強になりました。もう少し深められるのではないかとされる研究が幾つかありました。
- ・No. 8について、1つの病院の試みが地域へ広がることを期待します。
- ・在宅に関係した職種で業務を行っていますので、何例か関連した研究発表もあり興味深く聞かせてもらいました。
- ・地域の課題に幅広い内容で、大変参考になりました。ありがとうございました。お疲れ様です。
- ・午前より高度な研究発表でした。
- ・演者は発表時間を守る。

7. 発表会全体を通しての意見

- ・できれば、それぞれの発表のユニークな点、特徴について、リーダー格の先生からの一言コメントが欲しいと感じた。
- ・抄録があると良いと感じました。
- ・発表時間を超える方が多くいらしたようですが、発表時間が短かったのか、まとめるにはできにくかったのか、時間はどのようだったのでしょうか。会場の広さはとても良いと思ったのですが、参加の方が少なく残念と思います。
- ・大学の教員との共同であり、まとめ方などを含めてレベルの高さを感じた。
- ・演者が困らない質問をお願いします。座長さん、分かりやすい言葉をお願いします。学習になりました。
- ・意見ではありませんが、大変興味深いものばかりで、とてもよかったです。
- ・スクリーン画面の操作は、発表部署が行った方がスムーズ